

循環

事業の理念「高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように地域作りを行うこと、介護予防活動に取り組む事により健康で自立した高齢者を増やすこと」を実現するため話し合っています。活動と話し合いの循環こそ我々が目指すシステムです。

地域の困りごとから始まる話し合いと解決

通院で困っている認知症高齢者に対する住民活動

(実証実験中)

地域の困りごと

認知症のひとり暮らしの方が通院しないといけなくは、付添人がいない為にできない。そもそも本人に通院の意思がない。家族は遠方に住む。

やむを得ず・・・

- 担当ケアマネが休みの日にマイカーで、通院支援する。
- 担当民生委員がマイカーで送迎して診察まで付き添う。

話し合い
(協議体)

解決ツール

認知症高齢者の通院支援

住民と専門職のコラボ活動

〈住民活動〉

- ✓ 移動や付き添いに関すること。
- ※移送に使う車は社協の車や、町の移送サービスで

〈専門職支援〉

- ✓ 支払いや、診察に関すること。

活動と実験を繰り返したその先に・・・

- 地域包括ケアシステムのツールとして。
- コロナワクチン接種の付き添い支援。(要望)

チョコッとした生活お助け住民活動

地域の困りごと

- 窓を拭きたいけれど、腰が曲がって高いところへ手が届かない。
- 台風の片付けを一人ではできない。
- 終末期にむけた断捨離をしたいが、粗大ゴミの処分ができない。
- 布団を捨てたいけれど、集積所まで運べない。
- 対応できる公的サービスがなくて困るケアマネ。
- 家族は遠方に住み、コロナ禍で来られない。

話し合い
(協議体)

解決ツール

ご縁（五円）クラブ

簡単なお手伝い（30分以内）
自宅訪問系ボランティア活動
『活動費として“5円（ご縁金）”頂きます』

活動してみると新たな困りごとが・・・

- 「5円は申し訳ない」と依頼者。
- 活動中に“傾聴してほしい”と依頼。

心の健康作りをお手伝い住民活動

地域の困りごと

- コロナ禍で地区サロンが中止。人と話す機会がなくなった。元気がない様子。
- コロナ禍でお盆・正月に県外に住む子供や孫に会えなくて寂しい。
- 地区サロンの雰囲気が合わないので行きたくない。でも会話をするのは楽しい。
- 孤独な高齢者に対する訪問活動。(地域ケア会議からの要望)

話し合い
(協議体)

解決ツール

お話傾聴クラブ

ひとり暮らし高齢者などの自宅を訪問し、30分間のお話相手になる活動。
心のお天気を聴くなどの傾聴技術を駆使して、気持ちも晴れ晴れ。

活動してみると新たな困りごとが・・・

- 傾聴をしていたら、生活のちょっとしたお困りごとを頼まれた。
- 家の中の様子を見たら、大変そうな環境に気がついた。

ツールの作り。そこから発見される新たな困りごとの循環